

# 2019年 夏（6月～8月）の天候経過

令和 元年9月2日  
新潟地方气象台

## 1. 北陸地方の今夏（6月～8月）の特徴

**【この夏は高温。6月は高温・多雨・多照、7月は少雨、8月は高温・かなりの多雨】**

6月上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、7月末から8月中旬にかけては太平洋高気圧の張り出しが強まり晴れて厳しい暑さが続いた。また、8月14日から15日は台風第10号によるフェーン現象により記録的な高温となった所があった。このため、この夏の気温は高かった。

気温は、6月と8月は高く、3か月平均では高かった。降水量は、6月は多く、7月は少なく、8月はかなり多く、3か月平均では平年並だった。日照時間は、6月は多く、3か月平均では平年並だった。

## 2. 3か月平均（合計）と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	6～8月	6月	7月	8月
平均気温平年差 階級	+0.7℃ 高い	+0.5℃ 高い	+0.6℃ 平年並	+1.1℃ 高い
降水量平年比 階級	110% 平年並	142% 多い	49% 少ない	165% かなり多い
日照時間平年比 階級	103% 平年並	113% 多い	87% 平年並	108% 平年並

（注）北陸地方平均：北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したもの

## 3. 月別の天候経過

（6月）【高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。高温・多雨・多照】

上旬は、期間の中頃にかけて高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、その後は低気圧や湿った空気の影響で雨の日が多かった。中旬は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。下旬は、期間の中頃に高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や前線の影響により雨の日が多かった。期間の終わりは北陸付近に停滞した梅雨前線の活動が活発となり、大雨となった所があった。

（7月）【下旬のはじめまでは梅雨前線などの影響で曇りや雨の日が多かったが、その後は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった。少雨】

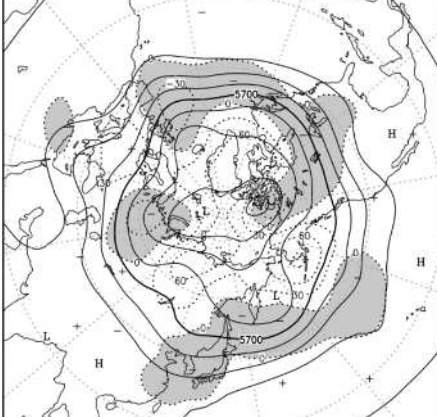
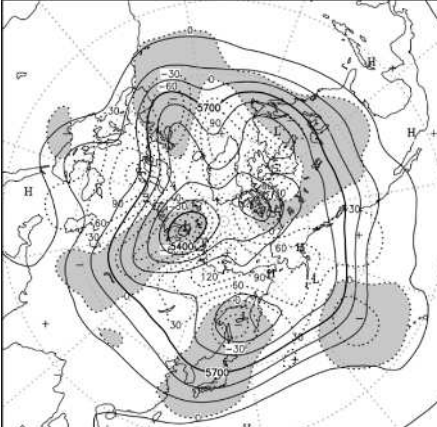
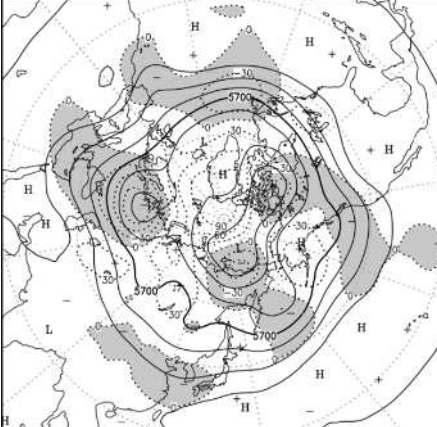
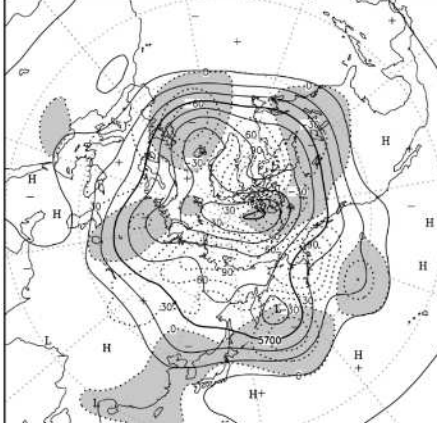
上旬は、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の後半は梅雨前線が日本の南まで南下したため降水量は少なかった。中旬は、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かったため日照時間は少なく、梅雨前線の位置は本州の南岸付近に停滞することが多かったため降水量は少なかった。下旬は、はじめ梅雨前線や低気圧の影響で雨の降った日が続いたが、旬の中頃からは高気圧に覆われて晴れた日が多く、また暖かい空気に覆われたため気温は高かった。上旬から中旬は上空の寒気や活動の活発な梅雨前線の影響で、下旬は台風第6号から変わった熱帯低気圧の影響で大雨となった所があった。

（8月）【上旬から中旬にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さが続いた。下旬は秋雨前線の影響で曇りや雨の日が多く大雨となった日があった。高温・かなりの多雨】

上旬は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が続いたため、日照時間は1961年の統計開始以来、2015年と並び最も多かった（平年比159%）。また南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は1961年の統計開始から2番目に高かった（平年差+2.5℃で、これまでの1位は1999年の+2.9℃）。中旬は、高気圧に覆われて晴れた日も多かったが、期間の中頃は西日本を北上した台風第10号の影響で、また期間の終わりは活動の活発な前線の影響で、大雨となった所があった。14日から15日は台風第10号によるフェーン現象で日最高気温が累年極値を更新した所があった。晴れた日が多かったことや台風によるフェーン現象による影響で、中旬の気温は1961年の統計開始から2番目に高かった（平年差+2.2℃で、これまでの1位は1994年の+2.6℃）。下旬は、秋雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったため日照時間はかなり少なく、また、前線活動が活発となり大雨となった日があり、降水量はかなり多かった。

#### 4. 大気の流れから見た今夏の特徴（500hPa 天気図）

等高度線（実線）の間隔は 60m、ハッチ域（陰影部）は平年より高度が低い部分（負偏差域）、白抜き域は平年より高度が高い部分（正偏差域）にそれぞれ対応している。

	<p><b>6～8月</b></p> <p>大陸東岸から本州付近にかけて負偏差となり、亜熱帯高気圧の本州付近への張り出しは弱かった。このため、東・西日本では太平洋側を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすかった。また、沖縄・奄美付近も負偏差に覆われ、亜熱帯高気圧縁辺の湿った空気の影響を受けやすかったことを表している。</p>
	<p><b>6月</b></p> <p>本州付近は負偏差となり、偏西風は日本付近で南に蛇行し、寒気の影響を受ける時期があった。沖縄の南海上は正偏差で亜熱帯高気圧の勢力が強かったが、日本付近への張り出しは平年より弱く、日本の南海上に梅雨前線が停滞しやすかった。沖縄・奄美では前線や湿った空気の影響を受けやすかった一方、本州付近は前線の影響を受けにくかった。</p>
	<p><b>7月</b></p> <p>東シナ海付近を中心に高度が平年より低い所がみられ、亜熱帯高気圧の本州付近への張り出しは弱かった。一方、オホーツク海北部に気圧の尾根がみられ、オホーツク海高気圧が現れたことと対応している。</p>
	<p><b>8月</b></p> <p>本州付近は正偏差、華北付近と千島の東は負偏差に覆われ、偏西風は極東域で蛇行し、日本付近で北偏した。このため、亜熱帯高気圧の本州付近への張り出しが強かった。一方、日本海から東シナ海にかけては負偏差がみられ、西日本を中心に亜熱帯高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けた時期があった。</p>

## 5. 参考資料

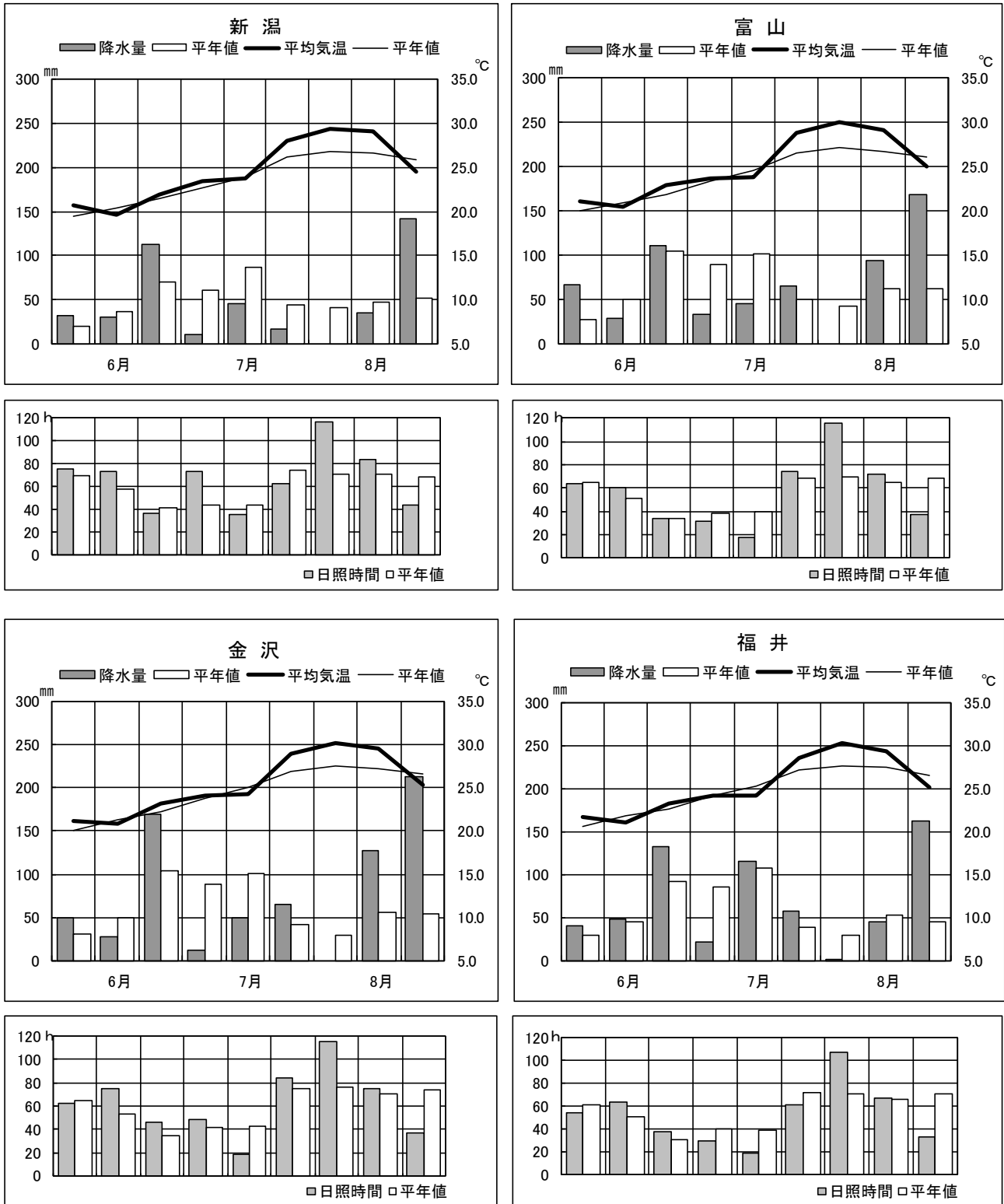


图1 新潟・富山・金沢・福井 旬平均気温・降水量・日照時間時系列

表1 北陸地方における6～8月の平均気温・降水量・日照時間

平均気温	6月		7月		8月		3か月平均	
	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)	実況値 ℃	平年差℃ (階級)
新潟	20.8	+0.3 (O)	25.2	+0.9 (+)	27.5	+1.1 (+)	24.5	+0.8 (+)
高田	20.9	+0.3 (O)	25.2	+0.6 (O)	27.6	+1.3 (+)	24.6	+0.8 (+)
相川	20.3	+0.8 (+)	24.6	+1.0 (+)	26.9	+0.9 (+)	23.9	+0.9 (+)
富山	21.4	+0.5 (O)	25.5	+0.6 (+)	27.9	+1.3 (+)	24.9	+0.8 (+)
伏木	20.8	+0.3 (O)	25.1	+0.5 (O)	27.7	+1.2 (+)	24.5	+0.6 (+)
金沢	21.8	+0.6 (+)	25.9	+0.6 (O)	28.2	+1.2 (+)	25.3	+0.8 (+)
輪島	20.2	+0.6 (O)	24.7	+0.8 (+)	26.7	+1.0 (+)	23.9	+0.8 (+)
福井	22.0	+0.4 (O)	25.7	+0.1 (O)	28.2	+1.0 (+)	25.3	+0.5 (+)
敦賀	22.2	+0.5 (O)	25.7	-0.1 (O)	28.5	+1.1 (+)	25.5	+0.5 (+)
北陸平均		+0.5 (+)		+0.6 (O)		+1.1 (+)		+0.7 (+)

降水量	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)	実況値 mm	平年比% (階級)
新潟	174.5	136 (+)	73.5	38 (-*)	177.0	126 (+)	425.0	92 (O)
高田	224.5	155 (+)	60.5	29 (-*)	260.5	173 (**)	545.5	108 (O)
相川	196.5	153 (+)	69.0	40 (-)	224.5	179 (+)	490.0	115 (O)
富山	206.0	113 (+)	144.0	60 (-)	262.5	156 (+)	612.5	104 (O)
伏木	252.5	150 (+)	75.0	32 (-)	264.5	170 (+)	592.0	106 (O)
金沢	246.0	133 (+)	126.5	55 (O)	339.0	244 (**)	711.5	128 (+)
輪島	278.0	170 (+)	29.0	14 (-*)	208.5	134 (+)	515.5	99 (O)
福井	221.0	133 (+)	195.5	84 (O)	207.5	163 (+)	624.0	118 (+)
敦賀	224.5	135 (+)	181.5	93 (O)	181.0	144 (+)	587.0	121 (+)
北陸平均		142 (+)		49 (-)		165 (**)		110 (O)

日照時間	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)	実況値 h	平年比% (階級)
新潟	185.2	110 (O)	172.0	107 (O)	244.1	116 (+)	601.3	111 (+)
高田	165.3	110 (+)	112.9	73 (-)	214.1	110 (O)	492.3	99 (O)
相川	196.2	114 (+)	165.2	101 (O)	230.5	107 (O)	591.9	107 (+)
富山	158.1	105 (O)	122.8	83 (O)	225.0	112 (+)	505.9	101 (O)
伏木	176.4	117 (+)	132.1	86 (-)	224.2	109 (O)	532.7	105 (O)
金沢	184.3	121 (+)	150.5	95 (O)	228.2	103 (O)	563.0	106 (O)
輪島	179.0	114 (+)	142.5	91 (O)	223.0	108 (O)	544.5	105 (O)
福井	156.1	109 (O)	108.1	72 (-)	207.3	100 (O)	471.5	94 (-)
敦賀	158.0	116 (+)	115.2	79 (-)	219.7	109 (O)	492.9	102 (O)
北陸平均		113 (+)		87 (O)		108 (O)		103 (O)

注1) 平年値は1981～2010年の資料から求めています。

注2) 階級欄の符号は、以下の事を示します。

(-) : 低い (少ない), (O) : 平年並, (+) : 高い (多い)

(-\*) : かなり低い (かなり少ない), (\*\*): かなり高い (かなり多い)

注3) 値の横に ) や ] がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示し、×は欠測を示します。

) 付きの値は正常の値とみなせますが、] 付きの値は欠測等が多いため正常な値と同等とはみなせません。

このため、統計日数 (統計に用いた品質が十分な日数) を气象台等に確認して、品質を確かめてください。

表2 北陸地方における6～8月の階級別日数

	6月			7月			8月		
	最高気温		最低気温	最高気温		最低気温	最高気温		最低気温
官署	30℃以上	35℃以上	25℃以上	30℃以上	35℃以上	25℃以上	30℃以上	35℃以上	25℃以上
新潟	0(1.1)	0(0.0)	0(0.0)	10(9.3)	0(0.8)	5(2.0)	20(17.9)	5(2.1)	17(5.5)
高田	1(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(13.2)	1(1.1)	1(0.8)	23(20.9)	6(2.9)	12(2.4)
相川	0(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	8(5.3)	0(0.3)	7(1.6)	17(12.8)	2(0.6)	8(5.6)
富山	2(2.4)	0(0.1)	0(0.0)	11(12.9)	3(1.6)	4(1.5)	22(19.0)	5(3.5)	18(4.4)
伏木	1(1.9)	0(0.1)	0(0.0)	10(11.4)	1(1.4)	5(1.9)	23(17.9)	4(2.6)	18(5.8)
金沢	2(1.6)	0(0.0)	0(0.0)	11(13.0)	1(0.7)	6(4.1)	19(20.5)	5(1.4)	19(8.8)
輪島	1(0.8)	0(0.0)	0(0.0)	12(8.3)	0(0.4)	2(0.6)	18(15.5)	3(0.7)	5(1.7)
福井	4(3.5)	0(0.0)	0(0.0)	13(15.3)	2(1.4)	4(3.1)	22(23.0)	8(3.8)	17(6.0)
敦賀	4(2.7)	0(0.0)	0(0.1)	8(14.2)	0(1.1)	7(6.3)	26(22.2)	8(2.5)	17(12.6)

注1) 真夏日：日最高気温が30℃以上の日 猛暑日：日最高気温が35℃以上の日

注2) いわゆる「熱帯夜」とは夜間の最低気温が25℃以上の日を指すので、ここに示した日数と異なることもある。  
一般的な意味での熱帯夜日数の統計はない。

注3) カッコ( )内は平年値

表3 北陸地方における6～8月の日最高気温

官署	最高気温 ℃	起日	極値更新	これまでの最高 ℃	統計開始年月
新潟	39.2	8/15	更新なし	39.9(2018/8/23)	1881/7
高田	40.3	8/14	更新	39.5(1994/8/12)	1922/1
相川	38.1	8/15	更新	37.8(2018/8/23)	1911/4
富山	37.2	7/26	更新なし	39.5 (2018/8/22及び1994/8/14)	1939/1
伏木	37.5	8/8	更新なし	39.7(1994/8/14)	1887/5
金沢	37.7	8/15	更新なし	38.0(1994/8/14、 1985/9/1、1978/8/2)	1882/1
輪島	37.5	8/15	更新なし	38.2(2000/7/31)	1929/5
福井	37.3	8/7	更新なし	38.6(1942/7/19)	1897/1
敦賀	37.0	8/8	更新なし	37.6(1918/8/13)	1897/10

◎日最高気温40℃以上となったアメダス観測地点

新潟県 中条40.7℃(8/15) ※1978年11月の統計開始以降の累年2位。累年1位は40.8℃(2018/8/23)

新潟県 寺泊40.6℃(8/15) ※2001年8月の統計開始以降の累年極値を更新

新潟県 三条40.0℃(8/15) ※1978年11月の統計開始以降の累年2位。累年1位は40.4℃(2018/8/23)

石川県 志賀40.1℃(8/15) ※1978年11月の統計開始以降の累年極値を更新

【参考】北陸地方における6～8月の日最低気温の高い方からの累年極値更新

官署	最低気温 ℃	起日	これまでの最高 ℃	統計開始年月
高田	30.3	8/15	29.4 (2000/7/31及び1968/7/29)	1922/1
相川	30.8※	8/15	29.6(1917/8/3)	1911/4
金沢	29.7	8/15	28.4(2013/8/10)	1882/1
敦賀	29.2	8/6	29.0(2018/8/22)	1897/10

※相川は、新潟県アメダス糸魚川に次いで、全国の高い方から2位。

◎日最低気温30℃以上となったアメダス観測地点

新潟県 糸魚川31.3℃(8/15)

1978年11月の統計開始から高い方の累年極値を更新。また、全国の高い方の累年極値も更新

新潟県 三条30.2℃(8/15) ※1978年11月の統計開始から高い方の累年極値を更新

石川県 小松30.0℃(8/15) ※1978年12月の統計開始から高い方の2位。1位は30.3℃(2000/7/31)

表4 北陸地方における6～8月の累年極値・順位（3位以内）更新  
なし

## 6. 天候情報発表状況

8月8日15時00分 長期間の高温に関する北陸地方気象情報 第1号  
8月30日15時05分 長雨に関する北陸地方気象情報 第1号

（注） この季節のまとめは、北陸地方の気象官署および特別地域気象観測所における気象観測値等をまとめたものです。  
なお、資料は速報値であり後日の調査で修正されることがあります。